



## 令和2年度を振り返る

以下は、修了式で生徒に伝えたことです。

令和2年度は特別な一年でした。授業日数 204 日を予定していたところ、コロナ感染症拡大防止による2カ月の臨時休業のため、1年生 186 日、2年生は 188 日、3年生は 187 日となってしまいました。皆さんにとって当然初めての経験ですが、私にとってもかつてない経験でした。日数こそ 17 日少なかったわけですが、学校生活の中身や充実度はどうだったでしょうか。

今思えば、これまで当たり前としていたことを見直し、コロナ禍でも工夫してできたことや、新しく生み出したことがありました。かしわ祭体育の部、合唱コンクール、激励会、感謝会、などなど。こんな年だからこそ、いつも以上に学校生活を楽しんでほしいと願い、学期毎に生活のキーワードを示してきました。自分の振り返りをしてみてください。

1 学期は「プラス思考と創造」。物事を前向きにとらえ、新しいことに挑戦しましたか。

2 学期は「変化を創る」。経験したことのないことでも工夫して取り組みましたか。

3 学期は「つなぐ」。来年度に向けて何をつなぎましたか。

1 年を通して、私が一番感心しているのは、皆さんの授業への取組です。毎日、教室へ見に行くのが楽しみでした。集中して課題と向き合い、級友の意見を聞きつつ自分の考えを表現し、かかわり合って課題を解決できる場所は、大中学生の誇るべきよさだと考えています。なぜなら、かかわり合って課題を解決することこそ、皆さんが社会に出たとき、絶対に必要とされる力だからです。

実社会では、コンピュータをツールとして、仲間とコミュニケーションを図りながら、目の前の課題を解決していくことが様々な場面で求められます。また、課題の解決を目指して仲間とコミュニケーションを図るには、知識や技能、考える力や判断する力、自分を表現する力がなくてはなりません。授業はそういう力を身につける場です。そして、最終的には、学校は学びを通して自分の可能性を広げるところです。そんなことをもっともつと意識して、自分の学びを高めてほしいと思っています。

「感謝」。第5ステージのテーマでした。生活を共にしてきた周りの友達、先輩・後輩、学びを支えてくれた大仁中スタッフ、そして毎日見守ってくれた家族に感謝。当然、けんかやトラブルもあったと思います。よかったことやうれしかったことだけでなく、辛かったり嫌だったりのことも、生きていく上での学びであり、それが必ず自分の糧となっていきます。そういう意味で、自分とかかわるすべての人・ものに感謝の気持ちをもって1年を閉じてほしいと思います。私も、大仁中で1年間幸せに仕事をすることができました。皆さんに感謝です。ありがとうございました。

最後に、お願いがあります。令和3年度のスタートの日に、もう一度よく考えた夢、をもって大中坂を登ってきてほしいと思います。1年をかけて自分が追い続けられそうな夢、です。そんな夢とともに4月6日に再会したいと思います。病気やけが、事故がないよう、元気に春休みを過ごしてください。 <文責 校長>

## 感謝会開催しました

今年は、いつもと同じようにはできません。しかし、生徒たちの手で工夫して、形を変えて実施しました。1・2年生が縦割りごとに小グループを作り、絵しりとりや椅子取りゲーム、宝探し等、様々な企画で3年生をもてなしました。その後、3年生に向け、人文字を作り、エールを送りました。



## 野球部 しんきんカップ県中学選抜野球大会出場

2月20日(土)に県大会がありました。今年は新型コロナウイルスの影響で満足に練習ができていませんでした。また、秋には出場予定だった東部大会を棄権するという悔しい思いもしました。その中で初めて出場する県大会だったので、とても緊張しました。結果的には1対2(浜松与進中)で負けてしまいましたが、良い経験をすることができました。県大会に出場したことに自信をもって、これからも更に上を目指して頑張っていきます。

野球部 部長 小坂さん

## 栄光を讃える

野球部 クリーニングのサトウ杯田方支部予選 優勝  
福祉園芸委員会 ペットボトルキャップ回収感謝状  
私の主張発表 2年 田丸さん  
海の子山の子表紙絵 3年 岡山さん(右上)、古屋さん(右下)



## 3年生 卒業旅行

3年生は、生徒による修学旅行の代替企画・運営である「にじプロジェクト」のひとつとして、先日、卒業旅行を行いました。



感染症流行の影響で遠くへは行けませんでした。学校内ウォークラリーや宝探しなど、普段できない体験をするができました。3年生が協力し、安全に楽しい思い出を作ることができました。コロナ禍で制限は多かったですが、今年だからこその良い思い出になったと思います。ご協力ありがとうございました。

実行委員長 3年 丹藤さん